

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：北海道の輪換畑を利用したイチゴリレー苗の生産技術 1．北海道で用いる親株の生産法			
[要約] 北海道で用いる親株は、親株生産用の苗を、12月20日頃から処理温度3で20日間の低温処理を行って生産する。これにより、3月に子苗を採苗でき、株の充実と1株当たりの増殖率を向上させることができる。			
キーワード（専門区分）栽培（研究対象）野菜類 - イチゴ （フリーワード）イチゴ、育苗、苗生産、ポット苗、北海道、輪換畑			
実施機関名（主査）農業総合研究センター育種研究所野菜花き育種研究室 （協力機関）イチゴリレー苗プロジェクトチーム 安房農業改良普及センター、安房イチゴ苗委託組合 北海道空知南東部地区農業改良普及センター （実施期間）2001年度～2003年度			

[目的及び背景]

イチゴリレー苗の生産では、北海道で用いる親株を雪が無くなる5月上旬に発送、定植となる。これまでは、9月に採苗した苗を保存し用いてきたが、増殖、採苗を行う6月～9月は炭疽病潜在感染の危険性が高く、育苗期間も長く苗の老化が問題となる。そのため、炭疽病潜在感染の危険性が少ない、2月～3月に採苗を行うことが望まれる。しかし、自然条件下では苗が休眠しているため、採苗が難しい。そこで、親株生産用の原原種苗に休眠覚醒のための低温処理を行い、早期にランナーを発生させ、苗の充実と原原種苗1株当たりの増殖率の向上を図る。

[成果内容]

1. 「とちおとめ」は3の低温処理を行った場合、処理期間が長いほど、処理後の生育が旺盛で、ランナーの初期発生が良い（表1）。
2. 「女峰」も低温処理後の生育は処理期間の長いほうが旺盛となったが、ランナーの初期発生に差はない（表2）。
3. 親株生産用の原原種苗に対する低温処理は「とちおとめ」、「女峰」とも、処理期間の長短による差はなく、320日間の低温処理で、3月中の採苗が可能となり、1株当たりの採苗数は約8株である（表3、4）。

[留意事項]

1. 炭疽病潜在感染の検定を行っていない苗を北海道へ持ち込まない。
2. 萎黄病、疫病等他の病害についても同様に発病していないか確認する。
3. 親株増殖用の原原種苗は無病ウイルスフリー株を用いる。
4. 低温処理は12月20日頃から開始する。
5. 低温処理後は昼温25、夜温10の加温温室内で管理する。
6. 2月下旬からランナーが発生してくるのでポット受けを行う。採苗は3月31日までとし、以後株の養成期間とする。
7. 増殖に用いた原原種苗は、炭疽病潜在感染の危険性があるので、子苗活着後に廃棄する。
8. 病害虫関係については病害虫部門の試験研究成果普及情報を参照とする。

[普及対象地域]

県下全域イチゴ生産地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1「とちおとめ」における原原種苗の生育状況(2002)

低温処理 日数	草高 (cm)	葉柄長 (cm)	小葉の大きさ		ランナー 発生数 (本)	5 以下の 遭遇時間 (時)
			葉身長 (cm)	葉幅 (cm)		
40日	30.2	24.3	10.3	8.0	2.3	960
30日	28.6	21.3	9.3	7.4	1.2	728
20日	21.6	13.0	7.3	6.3	1.5	502
対照 1	10.9	7.5	5.7	5.2	0.0	214
対照 2	7.8	5.3	5.9	5.5	0.0	474

- 注：1)処理温度は3とし、処理後は昼温25、夜温10で管理した。
 2)40日低温処理（12月1日処理開始、1月10日保温開始）
 3)30日低温処理（12月11日処理開始、1月10日保温開始）
 4)20日低温処理（12月21日処理開始、1月10日保温開始）
 5)対照1は1月10日まで無加温網室内に置き、1月10日から10に加温した。
 6)対照2は2月1日まで無加温網室内に置き、2月1日から10に加温した。
 7)30日、20日処理は処理開始前の低温遭遇時間を含む。
 8)2月6日に調査を行った。

表2「女峰」における原原種苗の生育状況(2002)

低温処理 日数	草高 (cm)	葉柄長 (cm)	小葉の大きさ		ランナー 発生数 (本)
			葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	
40日	31.4	25.2	11.3	8.1	1.2
30日	29.8	24.0	9.3	8.1	2.2
20日	26.4	20.0	9.8	7.8	1.3
対照 1	13.9	9.3	6.5	4.7	0.2
対照 2	8.7	6.7	4.8	3.8	0.0

注：表1と同じ。

表3「とちおとめ」における子苗の時期別採苗数(2002)

試験区	採苗数			4月1日までの 株当たり採苗数 (鉢)
	3月1日～8日 (鉢)	3月12日～15日 (鉢)	3月20日～4月1日 (鉢)	
40日	55	20(75)	25(100)	8.3
30日	43	33(76)	19(95)	7.9
20日	59	14(73)	27(100)	8.3
対照 1	9	16(25)	20(45)	3.8
対照 2	0	0	17(17)	1.4

注：採苗数は12株当たりの子苗を受けた鉢数とした。
 ()内の数字は累計数。

表4「女峰」における子苗の時期別採苗数(2002)

試験区	採苗数			4月1日までの 株当たり採苗数 (鉢)
	3月1日～8日 (鉢)	3月12日～15日 (鉢)	3月20日～4月1日 (鉢)	
40日	49	30(79)	21(100)	8.3
30日	52	24(76)	24(100)	8.3
20日	62	22(84)	14(98)	8.2
対照 1	9	6(15)	29(44)	3.7
対照 2	0	0	24(24)	2.0

注：表3と同じ

[発表及び関連文献]